

国際人文学部国際文化学科カリキュラム・マップ

DP (教育目標)

- DP1 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
- DP2 世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
- DP3 自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
- DP4 一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
- DP5 日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。
- DP6 必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
- DP7 異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
- DP8 習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	SDGs該当項目	
キャリア形成科目群	基礎演習A	1	必修	大学での学びに必要な基本的な考え方を身につけ、継続的・能動的な学習と、口頭発表や文章執筆に必要な知識・技法を習得する。 高等学校から大学への円滑な移行を図るため、大学での学習に必要な基本的なスキルを講義形式で解説したのち、各自の課題にそって情報収集を行う。					○	◎	○			
	基礎演習B	2	必修	基礎演習Aに引き続き、大学での学びに必要な考え方を身につけ、継続的・能動的な学習と、口頭発表や文章執筆に必要な知識・技法を習得する。 大学の2年次以降の学修に支障なく入っていけるよう、必要な基本的なスキルについてさらに解説し、各自の課題にそって情報収集を行う。					○	◎	○			
	基礎演習C	2	必修	この授業では、次の2点を目標としている。 ①3年次に国際文化演習を履修するための準備を行う。研究テーマの設定・先行研究や資料収集の方法・発表スライドのまとめ方、レポート作成方法等について学び、卒業論文(卒業制作)作成に必要な技術を習得する。学期末には原稿用紙20枚程度の小論文を作成する。 ②卒業後の進路決定について考える準備を行う。インターンシップについての情報を調べて共有すると共に、就職課が実施する説明会に参加する。					○	◎	○			
	キャリア形成演習	2	選択	キャリア形成のための主体的・自律的な学びを実現できるよう、必要な基礎知識を修得するとともに、必要な情報を適切な方法で収集および活用し、柔軟な思考力や判断力をもって行動する力を養うことを目標とする。 この授業を履修することを通じて、卒業後の進路について具体的な目標を設定し、計画的に就職活動を進めていけるようになることを狙いとしている。前半ではインターンシップ・エントリーや就職活動における最小限のトレーニングを行う。後半では、SPI問題集に取り組むことを通じて、問題処理能力の向上を図る。短時間に正解に辿り着くことが出来るよう、繰り返し練習問題に取り組んで欲しい。							○	◎	4,8	
	ビジネス入門	2	選択	本講義の目的は、主に営利企業を中心として、ビジネス社会の仕組み、企業の特徴、そこでのビジネスの進め方などを理解することにある。合わせて、将来社会人となった場合に不可欠なビジネスの知識も身に付ける。 ビジネスの世界への入門講義として、企業経営の基礎を学ぶ。履修者が、理論とケースディスカッションを通じて企業のグローバル展開や事業分析、そしてスタートアップなどに理解と関心を深めること、そして、今後のキャリア形成を考える上で、本講義がその礎となるとを目標とする。							○	○	◎	8
学部コア科目群	歴史・文化の視点	2	選択	大学での歴史の学習について、高校までの歴史の授業との違いを意識しながら、文化を歴史的に捉えていくために求められる基本的な視点を身につける。歴史の材料である史料の特性と、それらを利用した研究事例をもとに議論を進める。 歴史学の基礎的な事項について、日本史学の領域を中心に講義形式で説明する。研究に必要な作業の具体像について、担当教員の経験も交えながら解説することで、受講者が具体的なイメージを持てるようにしたい。	◎		○			○				
	異文化理解	2	選択	多文化、多言語、多民族社会の在り方、異文化間接触に関する様々な課題について学び、異文化を理解する知識と方法を身につけることを目標とする。さらに、昨年から外国人労働者の受け入れを容易にした日本において、多民族多言語多文化社会に変貌しつつあり、ホスト社会とマイノリティ・ディアスポラとの関係のあり方について理解することも目標とする。 グローバル化する世界においては、ヒト、モノ、カネの流れが益々ボーダレス化し、ヒトや文化の国際交流が盛んになっている。そして個人が異文化に接触する機会が飛躍的に増大している。それとともに異文化を理解することの重要性も増している。この講義では、日本や他の世界の文化を例に挙げながら、異文化理解の必要性、異文化理解の仕方、異文化理解に必要な心構えなどを学ぶ。	◎		○					○	10	
	世界の中の日本	2	選択	世界の中の日本、とりわけ日本と中国との歴史的関係を中心に勉強することを通じて、世界における日本の役割の変化を理解し、今後日本の国際的地位向上などについてともに考えるのを目指そうとするものである。 本講義は、日本と中国との歴史往来及び国際関係に興味を持つ学生を対象に、年代時間を軸にし、日本と関わりのある重要な歴史事件に重点を置くという形で日本がどのように世界を認識してきたか、日本がいかにして世界とともに歩んできたか、日本の国際関係などをめぐって皆さんと知識を分かち合うことを通じて、世界における日本の今後の在り方をともに思考する。	○	◎	○						○	
	国際コミュニケーション入門	2	選択	In this course students will have the opportunity to reflect upon various basic issues regarding communication. Besides the basis of the concept of communication, they will reflect upon the impact of cultural values and cultural knowledge. Students will be encouraged to raise their own questions and also to make comments during class.	○							◎	○	
	留学プランニング	2	選択	本授業は、2年次の春学期から海外長期留学を現実的に目指したい学生を対象とする。何となくではなく確実に意欲をもった学生、さらにプレゼン力及びコミュニケーションがしっかりとれる学生であることが望ましい。21世紀に入り、グローバル化の進展とともに、カネ、モノ、情報、ヒトの移動がボーダレス化している。これらを踏まえて異文化理解と知識を備えて履修者全員海外長期留学を目指す。 本授業ではまず留学する意味や目的について学習し、続いて留学前の準備、留学志望理由書の作成、模擬面接の練習、留学先での過ごし方について学ぶ。最後に帰国後に留学した成果を継続的に維持する方法について考える。授業では、講義だけではなく、留学先について学生が調べ、授業でプレゼンテーションし、議論していく。	○							◎	○	
	Basic Writing Skills I	2	選択	This is a required course for first year students in the Department of International Exchange Studies. It covers the fundamental skills of sentence structure, paragraphs, and the writing process. During the semester, students will start producing a portfolio containing all their work which is to be submitted at the end of the quarter as a course requirement.				○	◎			○		
	Basic Writing Skills II	2	選択	This is a required course for first year students in the Department of International Exchange Studies. It covers the fundamental skills of sentence structure, paragraphs, and the writing process. During the semester, students will start producing a portfolio containing all their work which is to be submitted at the end of the quarter as a course requirement.			○	◎				○		
	Intermediate Practical Discussion Skills I	2	選択	This course aims to improve the student's speaking, conversation, and discussion skills. Students will learn how to conduct conversations and discussions in English, with the end goal of developing a higher level of conversational fluency and a wider range of conversation strategies. Students will also develop a knowledge of new and additional vocabulary on useful conversation and discussion topics.			○	◎				○		

ドイツ語Ⅳ	2	選択	ドイツ語初級に不可欠な文法事項を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることが目標である。(独検5級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文を運用できる。) 読解力が深まる。ドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語を母語とする社会についての知識と関心を深めていってほしい。zu 不定句、形容詞の原級、比較級、最上級、動詞の3基本形、過去形、現在完了を理解し、活用することができる。				○	◎													
ドイツの言語・文化・社会 A	2	選択	(調整中)				○	◎													
ドイツの言語・文化・社会 B	2	選択	(調整中)				○	◎													
フランス語Ⅲ	2	選択	At the end of the course, students should be able to: Reinforce the knowledge of Year 1 Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts and possibilities. Develop an appreciation of the history of France, French people's lifestyle, habits, ways of being and make comparisons with their own cultures.				○	◎													
フランス語Ⅳ	2	選択	At the end of the course, students should be able to: Apply the knowledge of the past semesters of study and develop high level proficiency in French Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts and possibilities. Develop an appreciation of the history of France, French people's lifestyle, habits, ways of being and make comparisons with their own cultures.				○	◎													
フランスの言語・文化・社会 A	2	選択	Students should be able to comprehend and respond with increasing proficiency to spoken and written French, demonstrate nuanced cultural awareness and develop an appreciation of the relevance of analytical and critical thinking in French. There will be 13/14 face-to-face lessons. Students are expected to take ownership of learning; it is important that they complete the set tasks for each lesson and come to each lesson with adequate preparation and clear intent to learn.				○	◎													
フランスの言語・文化・社会 B	2	選択	The student should have studied French for five quarters or have past comparable/equivalent experience in learning the language for example from study abroad programs and/or self-study. The students should have developed an intermediate level of proficiency in French. Students needing extra support in terms of consolidation exercises or extension work are encouraged to talk to the teacher. This course focuses on the analytical and critical elements of the French language and culture. Upon completion, students should be able to comprehend and respond with increasing proficiency to spoken and written French, demonstrate sophisticated nuanced cultural awareness and develop an appreciation of the relevance of critical thinking in French (and more broadly Western) humanist traditions of learning. They will learn to become confident language learners who can be risk-takers and will be able to compare their own cultures and cultural spheres of reference (Japanese or others) with those of France and the Francophone world.				○	◎													
スペイン語Ⅲ	2	選択	文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。				○	◎													
スペイン語Ⅳ	2	選択	文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。				○	◎													
スペインの言語・文化・社会 A	2	選択	(調整中)				○	◎													
スペインの言語・文化・社会 B	2	選択	(調整中)				○	◎													
中国語Ⅲ	2	選択	中国語Ⅱを履修した学生を対象とする。中国語Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的な単語や文法知識を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、日常生活に密着する場面で使う日常会話を繰り返し練習することによって、効率よく中国語の基礎力、コミュニケーション力を養成できることを目標とする。中国語検定準4級あるいは4級を受験する。				○	◎													
中国語Ⅳ	2	選択	中国語Ⅲを履修済み、初級文法の学習を終えている学生を対象とする。初級クラスで習得した発音・語彙・文法などの内容を復習しながら、中級文法を学習し、中国語の構文構造を正しく理解し、初級から中級へのレベルアップを目指す。重要なポイントを繰り返し練習しながら、徐々に「自分のこと」や「日本のこと」を中国語で伝える能力を伸ばしていく。授業終了時に中国語検定4級合格レベルに到達することを目標とする。				○	◎													
中国の言語・文化・社会 A	2	選択	(調整中)				○	◎													
中国の言語・文化・社会 B	2	選択	(調整中)				○	◎													
韓国語Ⅲ	2	選択	1. 「韓国語Ⅱ」で学んだ韓国語を復習し、活用することができる。 2. より複雑な表現と文法を理解することができる。 3. 学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。 4. 教室内外においてコミュニケーションを行う中で、そのコミュニケーションに必要な言語、文化、社会について考え、学び、自己実現につなげていく力を育成する。 5. ハングル能力検定3級以上の合格を目標とする。				○	◎													
韓国語Ⅳ	2	選択	1・ハングル能力検定3級以上、TOPIK 3級以上の合格を目指す。 2・韓国語の中級レベルを目指す。 3・身近な話題について問題なく会話や作文ができる。その上、より複雑な社会的環境の中でコミュニケーションすることができる。 4・辞書を引きながら新聞記事や文学作品を読んだり、ニュース番組を見て理解することができる。				○	◎													
韓国の言語・文化・社会 A	2	選択	韓国の文化全般の知識を学習し、様々な文化トピックスに合わせた語彙力と表現力を研鑽していく。授業では韓国語で説明を多く取り上げるため、中級以上の読解・語彙力とリスニング向上にも繋がる。履修者は、積極的に韓国語で発言し、合わせて異文化理解を深めていく。				○	◎													
韓国の言語・文化・社会 B	2	選択	2年次のS1の韓国の言語・文化・社会Aの知識を踏めて、韓国の社会・歴史全般の知識を学習し、様々なトピックスに合わせた語彙力と表現力を研鑽していく。授業では韓国語で説明を多く取り上げるため、中・上級以上の読解・語彙力とリスニング向上にも繋がる。履修者は、積極的に韓国語で発言し、合わせて異文化理解を深めていく。				○	◎													
ハンガリー語Ⅲ	2	選択	ハンガリー語をもう一年以上勉強している学生のためクラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。授業中に時々英語も使う(翻訳の練習など)。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もするので、授業は英語学習も支えている。教材は無料である。ハンガリー語の授業はJ・Uのハンガリー研修とハンガリー留学プログラムの準備コースと夏の大学の奨学金の準備コースでもある。				○	◎													

ハンガリー語Ⅳ	2	選択	ハンガリー語を勉強する学生のためのクラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。授業中に時々英語も使う。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もするので、授業は英語学習も支えている。教材は無料である。 ハンガリー語の授業はJⅡUのハンガリー研修とハンガリー留学プログラムの準備コースと夏の大学の奨学金の準備コースでもある。						○	◎		○					
ハンガリーの言語・文化・社会A	2	選択	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組も使用して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャー、映画とアニメと漫画の世界などに至る様々なテーマをピックアップして、ハンガリー語を楽しく勉強する。						○	◎		○					
ハンガリーの言語・文化・社会B	2	選択	インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組も使用して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャー、映画とアニメと漫画の世界などに至る様々なテーマをピックアップして、ハンガリー語を楽しく勉強する。						○	◎		○					
ポーランド語Ⅲ	2	選択	ポーランド語を今まで履修した学生が対象となる。ポーランド語の初級文法を復習しながら、中級の学習を進めていく。特に会話能力と聞き取りに力を注ぐ。ポーランド人一家の日常を描いている"Uczmy sie polskiego"の文法を解説しながら、実用的な表現を身につける。簡単な受け答えだけでなく、自分の意見や考えを伝えられるようにする。語学学習のみに留まることのないように、ポーランド映画を視聴する。そのなかで表現される歴史的な状況、ものの考え方や文化的な局面を解説する。映像を通してポーランドという国の理解を深めることができる。						○	◎		○					
ポーランド語Ⅳ	2	選択	ポーランド語という言語の入門的な授業として、ポーランド語の文法の基礎を学ぶ。しかし、文法だけに集中せずに、発音にも細心の注意を払って、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかに年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要な不可欠な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単で、実用的な会話表現をマスターすることができる。						○	◎		○					
ポーランドの言語・文化・社会A	2	選択	地理的な観点から見るとポーランドはさまざまの国の影響を受けて発展してきた国家である。授業では歴史や文化を紹介しながら、ポーランドへの理解を深めていく。 この授業では用意された資料を使ってポーランド語を勉強する。さらにポーランドの社会を理解するために歴史、地理、政治や宗教への理解も深めていく。						○	◎		○					
ポーランドの言語・文化・社会B	2	選択	地理的な観点から見るとポーランドはさまざまの国の影響を受けて発展してきた国家である。授業では歴史や文化を紹介しながら、ポーランドへの理解を深めていく。 この授業では用意された資料を使ってポーランド語を勉強する。さらにポーランドの社会を理解するために歴史、地理、政治や宗教への理解も深めていく。						○	◎		○					
チェコ語Ⅲ	2	選択	今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることにも努める。徐々に読解力も身につける。 チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。又、授業の中で言語だけでなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコについての知識も深める。						○	◎		○					
チェコ語Ⅳ	2	選択	前期で習得した文法を使用し、簡単な文章を練習する。さらに語彙を広げ、日常表現を覚え、会話を練習する。会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。後期終了時に簡単な会話ができるように授業を進める。又、授業の中で言語だけでなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。						○	◎		○					
チェコの言語・文化・社会A	2	選択	教員が準備する教科書を基本に、チェコ語の授業を進める。今までチェコ語の文法、語彙、表現を復習して、新しい文法、語彙、表現に取り組む。 チェコの文化、政治等について記事を読み、読解力の向上をめざす。						○	◎		○					
チェコの言語・文化・社会B	2	選択	教員が準備する教科書を基本に、チェコ語の授業を進める。今までチェコ語の文法、語彙、表現を復習して、新しい文法、語彙、表現に取り組む。 チェコの文化、政治等について記事を読み、読解力の向上をめざす。						○	◎		○					
日本語Ⅲ	2	選択	この授業は、日本語の運用能力が上級程度の日本語力を有する学生を対象に開講されるクラスであり、最終的には日本語能力試験N1を高得点で合格できる能力および大学院入学後や就職後にも即応できるレベルを目指す。						○	◎	○	○					
統合日本語Ⅲ	2	選択	学習者は、日本の文化、社会情勢、環境問題、ビジネス、現在話題になっている事柄など様々なトピックについて、記事や資料を使用し、読む・聞く・書く・話すの4技能を養います。学んだ言語知識を実際に使い自分の言葉でまとめたり、意見を述べられるようにします。また、ペアワークやグループワークを通して、お互いの意見交換をし、発表したり議論したりして学びの成果をまとめます。						○	◎	○	○					
専門日本語（福祉・介護）	2	選択	福祉（介護・保育）現場に必要な日本語や表現を習得することを目標とする。 介護・保育の現場における1日の流れを把握し、要所要所で必要な知識、日本語を勉強し、実践する。						○	◎	○	○					
専門日本語（ホテル・観光）	2	選択	日本社会における重要なビジネス日本語の習得。様々な状況（空港、バス、観光名所など）での観光ガイドが使う日本語表現の習得。 日本のおもてなしを理解し、実践できるようになることを目標にする。						○	◎	○	○					
専門日本語（文学・評論）	2	選択	日本文学を含む現代文章が読める、語れるようになることを目指す。日本文学や現代文章を読む活動を通して日本人の考え方、価値観、思考、日本事情そして日本文化に関する言語表現を学ぶ。						○	◎	○	○					
専門日本語（異文化コミュニケーション）	2	選択	日本人とのコミュニケーションについて事例研究をしながら、ディスカッションを中心に学ぶ。日本人の「察しと遠慮」、曖昧な日本語表現を異文化コミュニケーションの観点から具体的に事例から学んでいく。言語のコミュニケーションスタイルの違いにも触れ、学習者の異文化体験を語り合った日本人学生から意見を聞いたりしながら、日本型のコミュニケーションを学ぶ。学ぶ内容を通して日本語表現・文法・語彙を学ぶ。						○	◎	○	○					
日本語プロジェクト教育A	2	選択	この授業は、学習者が自ら探したテーマについて情報を集め、調べ、フィールド調査を行い、ディスカッションした上で、発表する、レポートをまとめる。 資料は与えられたものだけでなく、学習者が能動的に資料を自ら調べてまとめ、自分の言葉で完結に述べたり議論したりした上で、書く作業を行う。						○	◎	○	○					
日本語プロジェクト教育B	2	選択	日本の社会や文化を知るだけでなく、人と関わることを通じて理解を深める。また、テーマを設定し、自ら情報を集め、調査し、結果をまとめ、そして発表までの一連の流れを通して日本語コミュニケーション能力の向上を目指す。						○	◎	○	○					

ビジネス日本語I	2	選択	日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネス場面で求められるマナーや日本語表現の基礎を、実践を通して身につける。				○	◎	○		○							
ビジネス日本語II	2	選択	将来日本の企業や海外の日系企業に就職を希望する学生が、ビジネスの現場で通用する日本語能力とともに、社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）と異文化調整能力（異文化を十分に理解し、異文化接触場面で起こる複雑な状況下で課題を遂行する能力）を総合的に修得することを旨とする。				○	◎	○		○							
キャリア日本語A（就職）	2	選択	将来、日本で働きたいと考える学生が社会に出るための準備をする。ビジネスコミュニケーションを図るために会社内の会話やケーススタディから学び、就職のための日本語（履歴書の書き方、面接の仕方、企業分析、エントリーシートの書き方）を学ぶ。また、日本語でのコミュニケーション能力を上げるために、テーマ別に調べる・考える・話し合うなどディスカッションを通して協働で学び合う力も養い、自らのテーマについてのプレゼンテーション力も上げる。				○	◎	○		○							
キャリア日本語B（進学）	2	選択	この授業は、学部卒業後、大学院進学を希望する学生を対象に、小論文やレポート、論文の書き方を体系的に習得するためのクラスである。				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese A	4	選択	The goal of this class is to be able to comprehend spoken Japanese at a natural speed and communicate naturally in Japanese. From the very beginning, you will be exposed to spoken Japanese at natural speed. In addition to pronunciation and intonation, the understanding of Japanese language structures and their appropriate utilization are emphasized throughout this course. You are required to memorize vocabulary in advance of class time. You will also be required to do extended exercises.				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese B	4	選択	The goal of this class is to be able to comprehend spoken Japanese at a natural speed and communicate naturally in Japanese. From the very beginning, you will be exposed to spoken Japanese at natural speed. In addition to pronunciation and intonation, the understanding of Japanese language structures and their appropriate utilization are emphasized throughout this course. You are required to memorize vocabulary in advance of class time. You will also be required to do extended exercises.				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese C	4	選択	Students will learn how to integrate the basic structures and vocabulary, which they learned previously so that they can comprehend reading materials and perform various communicative functions. They will study new structures and vocabulary necessary to enhance their language skills. Although aural/oral skills are continuously emphasized, an increased amount of reading and writing will also be required. Students are expected to participate fully in classroom activities and discussions.				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese D	4	選択	Students will learn how to integrate the basic structures and vocabulary, which they learned previously so that they can comprehend reading materials and perform various communicative functions. They will study new structures and vocabulary necessary to enhance their language skills. Although aural/oral skills are continuously emphasized, an increased amount of reading and writing will also be required. Students are expected to participate fully in classroom activities and discussions.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills A	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover lower-intermediate level sentence patterns and expressions.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills B	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover mid-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills C	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover mid-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills D	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover upper-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.				○	◎	○		○							
JLPT Preparation A	2	選択	日本語をJLPTN 4合格レベルまで上げます。それと同時に、日本での生活や、学校で使える日本語を学びます。 Increase your Japanese to the level of JLPTN4 passing. At the same time, students will learn Japanese that can be used at school and life in Japan.				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills A	4	選択	この授業では実際のコミュニケーション場面で、日本語で「できる」ことを増やすことを目標としている。授業が終わるころには、まとまりのある話をしたり、身近な話題の文の大切な点を理解したり、自然な速さの日本語を聴いて、大切なポイントがわかったり、SNSの投稿を読んだり、わからない言葉に出会ったときのストラテジーが使えることを目指す。				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills B	4	選択	この授業では実際のコミュニケーション場面で、日本語で「できる」ことを増やすことを目標としています。授業が終わるころには、まとまりのある話をしたり、身近な話題の文の大切な点を理解したり、自然な速さの日本語を聴いて、大切なポイントがわかったり、SNSの投稿を読んだり、わからない言葉に出会ったときのストラテジーが使えることを目指します。				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills C	4	選択	日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの4技能を高める中級日本語科目である。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills D	4	選択	日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの4技能を高める。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。				○	◎	○		○							
JLPT Preparation B	2	選択	このクラスでは、JLPTのN2レベルの達成を目指す。N2レベルの「読解・聴解」の試験対策はもちろん行うが、日本語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能をN2レベルかそれ以上に底上げすることが目的である。具体的にはテキストやクラスで学んだことを活用して以下のことができるようになる。 ①日本語の新聞が辞書を使ったり解説を受けながら理解できるようになる。②まとまった文章がととのった表現で書けるようになる。③ニュースが解説を受けながら理解できるようになる。④きちんとした表現で発表ができるようになる。				○	◎	○		○							
Japanese Project Education A	2	選択	This course is designed as a supplemental class for Japanese courses. Students are required to write their final Project paper on Traditional Japanese Culture. Students are also required to participate in three exchange activities.				○	◎	○		○							

多文化社会論	2	選択	グローバル化が進行する今日、地球上のほとんどすべての社会が多文化社会へと向かっているとと言っても過言ではない。 この授業では、多様な民族が混住する中欧およびバルカンの経験を軸として、日本を含む他の国や諸地域と比較しながら、多文化社会における人々の共生を実現するためには何が必要かを歴史的視点から考える。多文化社会に生きる人間としての自覚と態度を養うことが目的である。 ネイション、ナショナリティ、エスニシティ、アイデンティティといった、多文化社会を考えるうえで不可欠な用語や概念を理解したうえで、近代以降、今日まで続く国民国家形成への志向がどのような問題を生み出してきたかを検討する。 日本人にはあまり馴染みのない地域についての抽象的な議論を含むが、ビジュアル教材などの活用により、受講者の理解を助けるようにしたい。	◎								○	○	10
International Communication	2	選択	In this course students will be discussing issues related to international understanding and international communication based on the personal experiences and the readings distributed in class. This is a good opportunity for students going abroad to prepare themselves to participate in discussions using only English. Presentations on cultural issues will be given in English as well.	○									◎	10
Language Acquisition	2	選択	The aim of this course is to improve students' knowledge about how languages are learned, and how to teach English as a foreign language. It focuses on the development of language skills in terms of reading, listening, speaking and writing. It also analyses different aspects of English language and develops teaching skills around these components, enabling students to have an understanding of language learning and teaching.	◎									○	
Multimedia Production	2	選択	This course focuses on the conception, production and evaluation of multimedia, with a focus on basic video production and editing. Through this course, students will gain a better understanding of how multimedia is created and obtain the basic skills to create and edit multimedia themselves.										○	◎
Images of Japan : Literature and Film	1	選択	Examination of contemporary literature from post-WWI to end of Heisei (1989-2019). The period contemporaneous with the Heisei period is also marked by enormous changes external to the imperial time system: economic shifts (to virtual stagnation), social shifts (the progressive demise of the modern family), technological/material shifts (the rise of the digital/internet age), and more. We will closely read texts with a mind to the process of making meaning of Heisei as emerging history.	○	◎	○								
Variable Topics in Culture and Society in Japan	1	選択	Although foreigners have studied and analyzed many unique aspects of Japanese culture since the 16th century, it is still difficult for them to understand how the Japanese think and act. This course will explore some of the major Japanese thoughts from the pre-modern as well as modern periods and examine characteristic behaviors of the contemporary Japanese people.	○	◎	○								
Selected Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択	Progress toward deep understanding of animation and mastery of the interpretive tools needed to make sense of this important popular phenomenon. We range in history from the first Japanese animations in the early 20th-century to within the past few years and will also cover a variety of genres, from children's fairy tales to war propaganda, science fiction and fantasy, crime/thrillers, and experimental works.	○	◎	○								
日本語学概論A	2	選択	この授業では、日本語学の専門的知識として日本語の構造を幅広く学ぶとともに、日本語教育の視点及び国際的な視野からも日本語についての理解を深める。 (1)音声と音韻、文字と表記、意味体系、語用論の基礎概念を理解し、それによって日本語を分析したり説明したりできる。 (2)日本語の変遷と系統の基礎知識を理解し、説明できる。 (3)共通語と標準語の概念を理解し、説明することができる。 この授業と「日本語学概論b」で、日本語学の基礎知識を広く学ぶ。初めに、日本語の系統や「共通語」と「標準語」の概念などを学ぶ。その後、語の形（音声と音韻）、その表記（文字と表記）、形に結びつく意味（意味体系、語用論）について基礎的な概念を学ぶ。			○	○		◎				○	
日本語学概論B	2	選択	この授業では、日本語学・日本語教育の専門的知識として日本語の構造を幅広く学ぶとともに、国際的な視野からも日本語についての理解を深める。日本語教育との関連を考えつつ、形態論・語彙論・文法・待遇表現を中心に学ぶ。 次の四点を到達目標とする。 (1)日本語の形態論の基礎概念を理解し、説明できる。 (2)日本語の語彙論の基礎概念を理解し、説明できる。 (3)日本語文法の基礎概念を理解し、説明できる。 (4)待遇表現や語の位相に関わる基礎概念を理解し、説明できる。 この授業と「日本語学概論a」で、日本語学の基礎知識を広く学ぶ。形態論として、語構成と造語法、語種、語彙量などを学ぶ。文法の諸概念のうち、態と授受表現、テンス・アスペクト・モダリティ、主題と取り立てを学ぶ。言語と社会に関わる分野から、待遇表現と語の位相について学ぶ。			○	○		◎				○	
日本語の文法A	2	選択	国語教師になるための国語文法（学校文法）を理解すること、また、自分たちの頭の中に備わっている母語（日本語）を見つめ直すことによって、言葉に対する分析力や論理的思考力を養うことを目的とする。 母語は無意識のうちに獲得してしまうため、外国語として学ぶ英語と違い、言葉の規則をうまく説明できないことが多い。そのため、学校文法を鵜呑みにして暗記するだけになってしまいがちだが、自分が学んできた学校文法を批判的に見直すことで疑問点を見つけ、外国語としての日本語教育における文法も視野に置きつつ、疑問点を論理的に解明していく。			○	○		◎				○	
日本語の文法B	2	選択	日本語の文法bでは、外国人に日本語を教えるための日本語文法を学ぶ。まず、形容詞や動詞などの品詞、活用、文の特徴と種類、文の成分などを学ぶと同時に日本語学習者がどのように文法を学ぶのか、初級日本語の教科書からも概観する。そして、得た知識を基に実践的な文法の教え方について考える。また、テンス、アスペクト、ヴォイスなどは日本語教科書でどのように教えられているのか、簡単に概観する。テキストを中心に授業をすすめる。授業では講義形式だけでなく、ディスカッションの時間も多くなる。積極的な参加が求められる。			○	○		◎				○	
日本語の語彙・意味	2	選択	この授業では、日本語学の専門的知識として日本語の語彙論・意味論について幅広く学ぶとともに、日本語教育の視点及び国際的な視野からも日本語についての理解を深める。具体的には次の通りである。 (1) 語彙論の基礎的な事項を理解し、説明できる。 (2) 語の意味論の基礎的な事項を理解し、説明できる。 (3) (1)と(2)を用いて、日本語表現を分析し、説明することができる。 この授業では、日本語の語彙を、語の内部構成や意味、語彙の体系、計量的分析などの視点から概観する。語彙をこれらの視点から考えることで、日本語の語彙・意味のさまざまな面を理解し、日常的な表現を自分で分析したり説明したりできるようにする。日本語教員や国語教員を志望する履修者や日本語学とその関連分野で卒業論文を書く履修者にとっては、さらに文献を読み、自分で考察を進めるための基礎になる。			○	○		◎				○	
日本語の音声	2	選択	この授業では、日本語音声学の基礎知識を身につけることを目標としている。 日本語教育のための音韻・音声体系を学ぶ。音声学とは何か、についての理解から始め、音声器官、日本語の音韻、国際音声記号、拍、アクセントなど、多くのトピックについて学修する。日本語の音声に関する理論や知識を受動的に学ぶのではなく、自分自身の音声を客観的に観察し、内省することを通じて音声学的知識を身につける。教員による講義だけでなく、ペア活動やグループディスカッションなどの演習形式で授業を進める。			○	○		◎				○	

専門科目群II (韓国に関する言語・文化・社会)

韓国語コミュニケーション (書く・読む) III	2	選択	この授業では、下記の項目を目標とする。 1. クラスメートについて知り得たことの中から、クラスの皆に伝えたい内容を取捨選択し、自分の意見を加えて文章化することができる。 2. 自分に必要な単語を辞書アプリなどで調べることができる。 3. 韓国語の正書法に従って、まとまりのある文章を書くことができる。 4. 韓国語のキーボードに慣れ、正確にタイピングすることができる。 成果物を作る過程で、韓国語を正しく読み・書く (入力する) 力を磨くことを目指す。連携科目である「韓国語コミュニケーションIIIa」の「実現したい生き方や職業」に関するインタビュー活動を基に、集めた情報の中から皆に紹介したい内容を取捨選択し、自分の意見を加えて文章化する。最終的な成果物はインタビュー協力者に贈るとともに、クラス内で共有し、学内における韓国語コミュニティ創りにつなげることを目指す。						○	○					◎				
韓国の歴史	2	選択	他国の歴史を学ぶことはその国の現代社会(政治、文化、日常生活など)を理解することにおいて必要不可欠な要素である。このような問題意識に基づき、本講義では古代から現代に至る韓国の歴史に関する基礎的理解を提供する。厳しい日韓関係により、隣国でありながら、日本と韓国ではお互いの歴史を偏見なく学ぶことが非常に難しい状態である。しかし、今後、両国の相互協力を深めるためには、お互いの歴史を政治的立場から離れ、学問的に分析し、理解することが必要である。朝鮮半島の最初の国はいつ立てられたのか、高麗と朝鮮時代の政治制度や文化はどう違うのか、中国や日本との関係はどのように発展してきたのか、植民地政策と独立運動はどう進んだのか、なぜ朝鮮半島は分断されたのか、韓国の民主主義はどのように定着したのかなど、今の韓国社会を理解するために必要な歴史的知識を学ぶとともに、歴史に対する自分の意見を論理的に説明する力を育てる。	○						◎									
韓国の社会	2	選択	本講義では韓国の伝統と風習、政治、経済、様々な社会問題に関する基本的理解を提供する。厳しい日韓関係により、日本では韓国社会を、韓国では日本社会を学ぶ機会が少なくなっている。しかし、今後、両国の相互協力を深めるためには、お互いに対する偏見のない理解が必要である。韓国の伝統と日常生活は日本とどう違うのか、韓国は民主主義をどうやって勝ち取ったのか、韓国の急速な経済発展が可能だった理由は何か、その裏にどのような社会問題が存在しているのか、韓国のドラマや歌はこのような社会像をどう表現しているのかなど、テーマを社会的視点から分析することで、今後日韓比較を可能にする基礎を固める。	○						◎									
韓国の文学	2	選択	韓国の文学 (小説、随筆、詩) を読んで、韓国の文化、歴史、社会、政治などいろいろな側面を垣間見る。文学表現を通して文学作品に対する鑑賞力を養い、文化や国の違いを正しく理解する。 (1) 授業に関連する視聴覚教材 (原作がアニメや映画化されたもの) などを利用する。 (2) グループを作り、発表や意見交換などを行う。 (3) 毎回の授業の振り返りとして、ワークシートを毎回提出することで、双方向の意思疎通を図る。 受講者は自分の興味のあることについての発表も行う。授業はおおよそ下記の計画で行うが、学習効果を高めるために、内容や順序を変更することがある。	○						◎									
日韓通訳技法Ⅰ	2	選択	この授業の目標は次の通りである。 1. 通訳の基礎 (種類・求められる知識・技術等) がわかる。 2. ごく身近な話題かつ比較的易しい内容について、韓日逐次通訳ができる。 韓国語初・中級レベルの学生を対象にしたクラスである。「通訳」の基礎的な知識 (種類・求められる技術・日韓通訳の歴史等) を学ぶ。また、通訳者の疑似体験として、ごく身近な話題かつ比較的易しい内容の映像を用いた韓日 (日韓) 逐次通訳に挑戦する。	○						◎								○	
日韓通訳技法Ⅱ	2	選択	この授業の目標は次の通りである。 1. 身近な話題について、「相手に伝える・伝わる」ことを重視した日韓 (韓日) 逐次通訳ができる。 2. 韓国語・日本語の語彙力・表現力・音声表現力を高めることができる。 身近な話題を素材に、「相手に伝える・伝わる」ことを重視した日韓 (韓日) 逐次通訳の訓練に取り組む。実践の後、日本語・韓国語特有の表現をいかに伝えるか (省略・補足の要否等) についてペア・グループで話し合い、さらに実践を重ねながら、学びの定着を目指す。	○						◎									○
日韓翻訳技法Ⅰ	2	選択	この授業の目標は次の通りである。 1. 翻訳がどのように行われるものなのか、情報を収集・話し合いを経て、理解を深める 2. クラスメートと協働して韓日翻訳を実践し、より良い翻訳について考える 翻訳の基礎 (翻訳に関する知識・技術・文体、話し言葉・書き言葉の翻訳上の特徴についての知識など) を学ぶとともに、ペア・チームでの韓日翻訳に挑戦し、その過程で個人の翻訳能力を伸ばす。成果物として韓国の絵本を翻訳し、韓国語がわからない人たちにその絵本の魅力を届けることを目指す。	○						◎									○
日韓翻訳技法Ⅱ	2	選択	この授業の目標は下記の通りである。 1. 「翻訳」に関わる仕事 (種類、求められる知識・技術等) がわかる 2. 身近な日韓・韓日の翻訳物を観察・記録し、日韓両言語の語彙・表現力向上につなげることができる 3. 観察を通して得た気づきをクラスメートと共有し、より良い翻訳について考えを深めることができる 4. クラスメートと協働して、翻訳物を完成させることができる 前半は、「翻訳」に関わる仕事や「翻訳物」の調査・観察、各自の気づきを共有し、「翻訳」に対する理解を深める。また後半は、クラス全体やペア・グループで協働し、日本語から韓国語 (または、韓国語から日本語) への翻訳物作成に取り組み、翻訳 (翻訳チェック) について、実践を通して学ぶ。	○						◎									○
日韓比較文化	2	選択	この授業では、日韓比較文化を例に、多言語から複文化にかかわる文化の多様性、可変性を理解し、現時点での自己の文化観を構築することを目標とする。尚、アカデミック・ライティングも本授業の目標のひとつである。学習者自らが文化事象について観察し、分析し、比較する「高次思考力」や、他の学生と協働して学習を進める「協働力」、ITなどを活用して情報を収集したり、発信する「情報活用力」など、21世紀を生き抜く力の育成が対象となる。尚、1年次、2年次の「韓国現代文化」で扱った内容も重ね合わせながら授業を展開する。	○	○					◎									
韓国語プロジェクトA	2	選択	この授業は、韓国語を通じて社会実践を進めていくプロジェクト学習である。自分がおかれている社会の中で、自分が設定した課題について、韓国語を活用し、他者と協働しながら成果物 (動画など) を制作し、社会に発信していく。 この授業では、学生が自分の置かれている社会を認識し、課題 (例：韓国人留学生に役立つ生活情報の発信など) を把握するところから始まる。その問題を解決するために計画を立て、調査・分析し、何かしらの成果物を制作し、公開する。この一連のプロセスは他者との協働によって実現される。								○							○	◎
韓国語プロジェクトB	2	選択	この授業では、韓国語を通じて社会実践を進めていくプロジェクト学習を行う。自分がおかれている社会の中で、自分が設定した課題について、韓国語を活用し、他者と協働しながら成果物 (動画など) を制作し、社会に発信していく。本年度は (韓国) 仁川大学とのオンライン交流を通じて、協働でプロジェクトを進める。したがって、韓国語を使用して主体的かつ積極的にコミュニケーションし、協働する姿勢、態度は必須である。 この授業では、学生が自分の置かれている社会を認識し、課題を把握するところから始まる。その問題を解決するために計画を立て、調査・分析し、何かしらの成果物を制作し、公開する。この一連のプロセスは他者との協働によって実現される。								○							○	◎
韓国語検定演習A	2	選択	韓国語1A (既習者クラス) の履修者を主な対象としているが、初めて検定を受験したい学生も含めて全員合格を目指す。毎年6月に実施されるハングル能力検定及び7月のTOPIKⅡ級以上の合格を目指す。 授業では「ハングル能力検定4、5級」及びTOPIKⅡに関する語彙・文法などを集中的に学習し、基本的に毎回暗記を行い、その後模範問題に挑戦する。								○	◎							
韓国語検定演習B	2	選択	韓国語1Aの修了者を対象とし、毎年11月実施される「ハングル能力検定」4級及び3級、10月TOPIKⅡ級以上の全員合格を目指す。履修者は、11月の「ハングル能力検定」3級以上 (4級併願可) を全員受験しなければならない。 「ハングル能力検定」3級以上の合格を目指し、発音から文法的な問題までを学習する。問題演習・毎回語彙暗記を中心に取り組み、試験終了後は、これまで学習した語彙と新しい文法を学び、作文や読解学習を行う。								○	◎							

地理歴史科教育法Ⅰ	2	選択	本科目では、地理歴史科教員に必要な「学習指導要領」の解説を中心とした授業を展開する。なるべく平板な授業とならないようにしたい。本科目の目標は、地理歴史科の担当教員の必要な学習指導案の作成方法をはじめとして、学習指導要領や教科構造の理解および実際の授業をすすめていくにあたって必要とされる教育技術の原理の習得をめざす。 本科目は、主として講義形式による授業形態をとるが、適宜、質疑応答を取り入れ、一方的な授業運営に陥らないように心掛ける。地理歴史科の担当教員に必要な学習指導案の作成方法や学習指導要領や教科構造の理解、実際の授業を進めるにあたって重要な教育技術など、地歴科の根幹を構成する内容全般にわたってテーマを取り上げる。	○							◎	4
地理歴史科教育法Ⅱ	2	選択	地理歴史科教育について、その目標、内容とともに、地理学・歴史学との関係についても講義する。また、講義だけに終始せず、学習指導案の作成をはじめ、試験問題・配布資料の作成、実際の模擬授業も適宜おこなう。本科目では、地歴科の教材の取り扱い方から具体的な作成方法の習得までプロセスを重視した授業に重点目標をおく。 学習目標にそった授業を展開するに際して、教材を取り上げ組織化していく実践的な活動が、いわゆる「教材研究」である。授業の良し悪しは教材研究いかんによることはいうまでもない。ただし、地理歴史科が対象とする社会的現象は、作為の契機を含んだ複雑な性格をもっているため、そのとらえ方には多義的な視点が生じる。授業者には確固たる教材作成の理念が求められるゆえんである。本科目では、生徒の立場にたった教材化の視点から教材作りの実際に行きわたるまでのプロセスを具体的な事例に即して取り上げていく。	○							◎	4
道徳教育の理論と方法	2	自由	この授業は、人間形成における「道徳教育」の重要な意義を歴史的な視点も含め総合的に理解するとともに、教職を志望する立場から現代社会における道徳と道徳教育の現状と課題について広く関心を持ちつつ、歴史的アプローチとして日本の近代教育と道徳教育の変遷をおさえつつ、21世紀に入って確立した「教科道徳」の意義と内容について取り上げていく。併せて、道徳教育のすぐれた教材や指導集を検討することを通して、道徳授業の実践的指導力の形成を図っていく。「新学習指導要領」の総則及び第3章への内容理解を踏まえつつ、新たな道徳教科書の教材研究と教材解釈に取り組んでみたい。そのうえで学級担任としての指導計画の立案と共に各回の指導案の検討と精練そして指導案に基づく模擬授業の実践を体験していく。	○							◎	4
総合的な学習の時間の指導法	2	自由	各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の特徴を踏まえ、往還的な探究学習を展開するために必要な知識・理論、具体的な指導計画・授業における指導方法などを理解する。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導方法並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるよう具体的な事例を通し、考察していく。	○							◎	4
特別活動論	2	自由	日本の学校教育において、特別活動はキャリア教育の要として教育課程に位置付けられている。生徒の全人的な成長を促すための教育活動の一つとして、特別活動は重要な役割を担っている。特別活動の教育的な理念を踏まえ、生徒を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。 特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付けるよう具体的な事例を通して、考察していく。	○							◎	4
生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2	自由	生徒指導は、生徒に対する総合的な指導であり、教育活動上、重要な位置をしめる。そのため、文部科学省は、教員への助言として生徒指導の基本原則や基本的事項・心得をまとめた「生徒指導提要」(平成22年3月。文部科学省)を発行するとともに、それをもとにした実践を期待した。そこで、本授業では「生徒指導提要」の概略の理解を第一義とし、さらに、生徒指導の実践に対する深い見識を持つことを目標とした。また、この中には進路指導・キャリア教育も含まれるため、それらについても理解を深める。	○							◎	4
教育相談(カウンセリングを含む)	2	自由	現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通して人格的成長を促す関わり、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聴き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。	○							◎	4
介護体験	2	自由	この授業は、特別支援学校及び社会福祉施設での介護体験とその事前・事後指導で構成される。 この授業の目標は教員として必要な人間関係能力を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する認識を深めることである。そのため、特別支援学校の児童・生徒及び社会福祉施設の利用者などのさまざまな人々の生き方、相手の立場を尊重した接し方など、互いを尊重した人間同士のコミュニケーションを通して教師としての在り方を模索する。 また、特別支援学校及び社会福祉施設での実習を通して、教員を目指す者として人間の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることを目指す。	○							◎	4
教育実習Ⅰ(事前及び事後指導を含む)	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえた教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○		◎	4
教育実習Ⅱ	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえた教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○		◎	4
教職実践演習(中・高)	2	自由	この授業は教職課程の総まとめの科目であり、これまでに学んだ教職に関する知識、専門教科に関する知識、そして教育実習で得た経験、さらに教職インターンシップや学習チューター等で得た知識・技能を統合して、振り返りをおこなっていく。将来、教員としての責務を果たすために求められる教育実践において補わなければならない点を認識し、それを補い、発展させるために模擬授業、フィールドワーク、グループ討論等を通して学び身に付けて、学校現場で活躍できる教員を目指す。	○					○		◎	4
日本語(言語知識)	2	自由	この授業は、上級レベルの力をつけるためのクラスである。試験のための言語知識・文法に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の方略を学ぶ。また、この授業では、単に言語知識を得るだけではなく、学んだ知識を活用して、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。			○				◎	○	
日本語(読解・聴解)	2	自由	このクラスは、上級レベルの力をつけるための授業のクラスであり、N2以上のレベルの学生が対象である。日本語能力試験のための読解・聴解に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の戦略・方略を学ぶ。また、この授業では、単に読解力や聴解力を養うだけではなく、学んだ内容を活かして、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要となる。			○				◎	○	

特設科目群	日本語A	2	自由	日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいく。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識を使えるようになることを目的としている。そのため、学んだ内容を駆使し、発表したり、ディスカッションしたりする。特に口頭産出を学ぶ。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要である。				○		◎		○				
	日本語B	2	自由	この授業は、内容面では「衣・食・住・廃棄物」といったテーマについて理解し、仲間との対話を通して自分なりの考えを形作り、表現できるようになることを目指す。技能面ではテーマに関する読み物を読み、音声聞き、仲間と対話し、ふり返りを書くという一連の活動を通して、4技能をバランスよく使えるようになることを目指す。				○		◎		○				
	日本語C	2	自由	N2レベルの単語、漢字を習得し日本語能力試験N2に合格することを目標とする。 N2からN1へのステップアップも視野に入れる。 いまの自分の日本語能力でできること、できないことを明確にし、ステップアップを図る。 単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識が使えるようになることを目的としている。そのため、学んだ内容を使って、発表したり、ディスカッションしたりする。最後には自分の考えや意見をまとめ、発表およびレポートにまとめる。また、日本語能力試験のN2対策も授業で扱う。特に文字・語彙に力を入れます。授業外では、毎回、2時間以上の課題がある。				○		◎		○				
	日本語D	2	自由	JLPT N2合格を目指して、聞き取りのスキルを学ぶ。具体的には、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりする力をつけることを目指す。				○		◎		○				
	日本語E	2	自由	日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいく。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識が使えるようになることを目的としている。そのため、学んだ内容を使って、発表したり、ディスカッションしたりする。最後には自分の考えや意見をまとめ、発表およびレポートにまとめる。また、日本語能力試験のN2対策も授業で扱う。特に読解に力を入れる。				○		◎		○				

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」